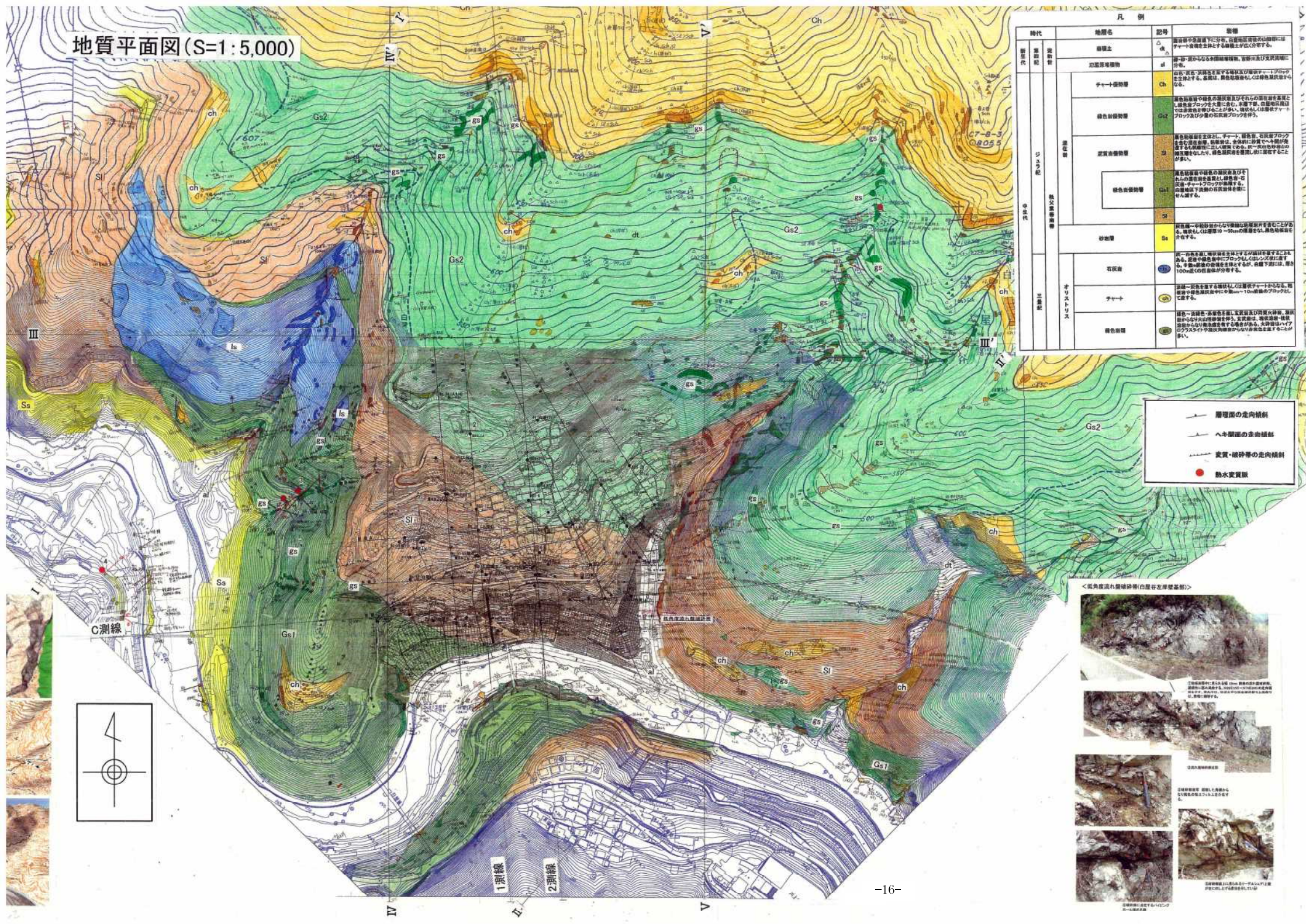


IV. 地形・地質とりまとめ

事 項	要 点	備 考
<p>1. 地形・地質</p>	<p>地形；</p> <p>白屋地区は全般に緩斜面となっているが、その背後には地すべり頭部に相当する滑落崖はない。また今回の地すべり範囲に対応する滑落崖などを示す地形も認められていない。ただし、川沿いの急斜面には小規模な馬蹄形の地形が局部的に認められる。</p> <p>地質；</p> <p>白屋地区周辺の基盤地質は秩父帯の中・古生層で構成されており、上位標高から河床部にかけてチャート優勢層 (Ch)、緑色岩優勢層 (Gs2)、泥質岩優勢層 (S1)、緑色岩優勢層 (Gs1)、砂岩優勢層 (Ss) が分布する。</p> <p>地層の分布は、白屋地区の低標高部では川側傾斜（流れ盤）、高標高部では水平に近い分布が想定され、下流側では上流傾斜が強くなっている可能性が考えられる。また河床部から対岸の人知地区にかけては地層の傾斜は逆転していると想定される。</p>	

地質平面図 (S=1:5,000)



凡例			
時代	地層名	記号	説明
新第三紀	新第三紀	△	新第三紀の地層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	近畿層地層	al	近畿層地層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
中生代	チャート層	Ch	チャート層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	緑色岩層	Gs2	緑色岩層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	武蔵層	Si	武蔵層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	緑色岩層	Gs1	緑色岩層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
第四紀	砂層	Se	砂層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	石灰岩	Ca	石灰岩は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	チャート	Ch	チャートは、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
更新世	チャート	Ch	チャートは、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。
	緑色岩層	Gs	緑色岩層は、白濁地質の山頂部にチャート層を主体とする地層からなる。

層面の走向傾斜
 へき断面の走向傾斜
 背斜・褶曲帯の走向傾斜
 ● 熱水変質帯

